

「新入生に贈る 100 冊」にかかわる読書推進活動について

浦田 恵子

2018 年より、関西大学では丸善雄松堂株式会社、株式会社紀伊國屋書店と協働し、読書推進企画「新入生に贈る 100 冊」に取り組んでいる。図書館においてもこの取り組みに絡めたさまざまな読書推進活動を実施してきた。これまでの活動について報告する。

1 概要

全国大学生生活協同組合連合会が毎年秋に実施している学生生活実態調査によると、2017 年、1 日の読書時間がゼロの学生が 5 割を超えた。当時の芝井敬司学長が活字離れの世代に、「本物の大学生になるために、本と向き合う決心を固めよ」と読書を呼びかけたのが「新入生に贈る 100 冊」の始まりである。当館ではそれまでも丸善雄松堂、紀伊國屋書店の協力により電子書籍の試読サービスを導入していたが、この取り組みでは、学長と二大書店が幅広い分野から 100 冊を厳選し、本の内容を説明しながら読書意欲を誘う仕組みが特長である。選ばれた本の多くは電子書籍のため、時間や場所にしばられることなく気軽に読むことができる。また、2020 年からはスペシャルコンテンツとして、岩波文庫や岩波新書などから精選された 200 冊の電子書籍を読めるパッケージ「現代人の教養」を導入している。

2 これまでのあゆみ

図書館ではこの取り組みにあわせて、館内での展示や講演会など読書推進にかかわる活動を行ってきた。これまでのあゆみと統計から見た利用状況を述べたい。

○ 2018 年度

- 「新入生に贈る 100 冊」始動。
- 学習支援講座「書評のススメ」を実施¹⁾。
- 受講生が作成したキャッチコピーと本の紹介に投票する「KANDAI OBI-1 グランプリ」を実施。本の帯として巻いた本を陳列、販売するコーナーを書店に設置。

○ 2019 年度

- 関大生による本の帯プロジェクト（オビプロ）を実施²⁾。
- 学生が作成した読書カルテをもとに、書店員やバイヤーがお勧め本を紹介する「オーダーメイド選書」を実施。
- 第 1 回本問答『われらの子ども』、第 2 回本問答『サムラ

イブルーの料理人』、第 3 回本問答『100 の思考実験』を実施。

- 『美女と野獣』の映画上映会実施。

○ 2020 年度

- オビプロ実店舗での展示、ウェブストアでの紹介を実施。
- 長沼陸雄氏によるオンライン講演会『10 代のための疲れた心がラクになる本』を開催。
- 水島広子氏からのメッセージ「緊急事態宣言下での『折れない心の作り方』」を掲載。
- 「新入生に贈る 100 冊〔電子版〕を読んで関西大学図書館とつながろう！」を実施

○ 2021 年度

- 自分の気分に合わせておススメ本 1 冊をアプリで紹介する「KANDAI BOOK LUCK」を実施。
- 第 4 回本問答『ミツバチの会議』、第 5 回本問答『プラスチックの現実と未来へのアイデア』をオンライン開催。

「新入生に贈る 100 冊」では、読書にもっと親しんでほしいという願いを込めて、学長と書店が本を選んでいる。取り組みが始まった頃は、選書した紙の書籍を電子化するよう書店に交渉することもあったが、電子書籍の市場拡大により、現在では数多くの電子書籍から選書できるようになった。また読み上げ機能も今ではほぼ標準の機能となっている。

2020 年、コロナ禍によりキャンパスへの入構や課外活動が禁止され、春学期は授業のほとんどがオンラインを活用した遠隔授業となった。当初は課題の量や新しい授業のスタイルに戸惑った学生もいたが、自分のペースで学習を進められるというメリットを生かして、効果的な学習する姿が見られるようになったことが、大学のアンケートから明らかになった。この取り組みでも電子書籍のアクセス数が前年度の約 2.5 倍となるなど顕著な影響が見られ、図らずも電子書籍を中心にそろえる方針が役立つ機会となった。また、『10 代のための疲れた心がラクになる本』『10 代のうちに知っておきたい折れない心の作り方』といった心のケアに関する書籍がよく読まれ、想定外の大学生活となった学生の心理を反映したことをうかがわせる結果となった。

2020 年をピークに電子書籍の総アクセス数は減少傾向であるが、現在でも友人関係やコミュニケーションのとり方といった、新入生にとって身近な問題を扱う書籍がアクセス上位

にある。また学期始めである4～5月、10月にアクセス数が伸びることや授業で指定があったと思われる本は統計の上位にあることから、今後も授業と連携しながら時流に合ったテーマの本を選書することが必要であろう。

3 2022年度の活動

(1) 第6回本問答

日時：2022年11月16日(木)13:00～14:30

講師：宇山佳佑氏

演題：「恋愛小説の楽しみ方 ～『ひまわりは恋の形』をメインテーマに読み解く～」

会場：総合図書館ラーニング・コモンズ ワークショップ・エリア

「新入生に贈る100冊」からピックアップした1冊の本について、著者の方や本の制作に携わられた出版社の方を招き、深く掘り下げる企画「本問答」を2019年以降実施している。『ひまわりは恋の形』は各キャンパス図書館に冊子体を配架しており、非常によく貸し出されている。講演会当日も数多くの学生が参加した。

宇山さんは自己紹介のなかで、幼少期に架空の場面を想像して遊んだことが作品づくりの原体験となっていること、ドラマを通じて脚本家という仕事に興味を持ち始めた中学時代、よく本を読んだ高校生や大学生のころの読書歴を振り返りつつ、「読んだ本を棚に並べると、人生の歴史を一つひとつ重ねている感じがします。将来自分が悩んだり挫折したりしたときに、本が助けてくれる経験はきっとあります。心に残った本は手元においておくことをお勧めします」と読書に対する考え方を参加者に語りかけた。

恋愛小説の楽しみ方については、「恋愛小説として読まないことがいいのかなと思っています。主人公とヒロインが結ばれるかどうかではなく、出会いを通じて何を考えて何を得たのかなど、物語の中で生きる人たちの人生を描くのが大事だと思っています」と作者の想いを伝えた。

参加した学生からは、プロットづくりや出版社との関わり

など次々と質問の手が上がり、「作家の方とつながれる貴重な機会だった」「小説や物語をつくるということについて作家の方からお話を聞けて嬉しかった」といった感想が寄せられた。講演後に行われたサイン会では宇山さんの本を手にした多くの学生が並び、講演会は盛況のうちに終了した。

(2) 100冊おみくじ

期間：2022年9月30日～2023年3月15日

場所：総合図書館2階

2022年の秋、図書館のインターンシップに参加した森谷文香さん(文学部3年次生)、柴田豊南さん(社会学部3年次生)³⁾の発案による「100冊おみくじ」を総合図書館に設置した。おみくじには100冊のうちの1冊のタイトルやQRコードが書かれており、おみくじをひいた人が簡単に電子書籍にアクセスしたり、図書館で本を借りたりできる仕組みである。

「学生が読もうとする本の世界は狭い。例えば文系の学生は理系の本に手を出しにくく、逆も同様である」と気付いた二人が、ランダムに学生が本を手にするには、おみくじのような趣向もよいのではないかと考えたことが発端である。おみくじの箱を設置後、順調に利用が進み、200人以上がおみくじを活用するという人気企画となった。

4 最後に

冒頭でも述べた全国大学生生活協同組合連合会が昨年の秋に実施した調査によると、下宿生は仕送り額が1982年以降で最も少なく、飲食を切り詰めるなどして仕送り額の減少を補う状況が見られるという。また物価高騰の影響は明らかでないとしつつも、経済生活に関する悩みが今後も徐々に増えることが懸念されるとしている。図書館では、雑誌の値上げや書庫の狭隘化などの問題に加え、昨今の円安による負担が増え厳しい状況が続いている。そのような状況でこの取り組みを5年間継続し、延べ約500冊の資料を提供、さまざまな読書推進活動を続けてこられたのは、豊富な知識と読書経験を持つ先生方や各書店のご尽力だけでなく、教育後援会、ひいては父母の皆様方のご支援の賜物であることは忘れてはならない。

「新入生に贈る100冊」が始まって以降、専攻する学びに応じた100冊を紹介する学部や、大学前商店街に設置した「関大前まちかど図書館」など、図書館以外の組織による取り組みも展開され、大学全体で読書推進の動きは加速している。本を読んで世界を広げ、一回りも二回りも大きく成長した学生を社会に輩出する一端を担っているという意識で、今後も読書推進活動に取り組んでいきたい。

注

1) 「書評のススメ」については、北野(2019)が論じている。



「新入生に贈る100冊」にかかわる読書推進活動について

- 2) 「オビプロ」については、新谷（2020）が論じている。
- 3) 両名とも年次は当時のものである。

ム』24, 2019、pp1-3

新谷大二郎 “関大生による本の帯プロジェクト「オビプロ」
の実施について”『関西大学図書館フォーラム』25, 2020、
pp38-41

参考文献

北野正人 “関西大学図書館 図書館学習支援講座『書評の
ススメ!』の実施について”『関西大学図書館フォーラ

(うらた けいこ 図書館事務室)